

美術作品がいっぱいの頸城中 ～生徒の美術作品展示より～

頸城中では、美術の授業で制作した作品や美術部の作品が校内の様々なところで展示されています。力作ぞろいで、期末面談の際に、ご覧になった保護者の方も多いのではないでしょうか。来校された際には、ぜひ生徒の作品をご覧ください。



頸城中生徒の活躍 ～これからも応援をお願いします～

◆中学生の「税に関する標語」

上越市租税教育推進協議会長賞 優秀
「税金で 担う責任 作る未来」

橋本 愛恵 さん (2年)

高田税務署管内税務関係団体総連合会長賞
「税がある 感謝の気持ち 忘れない」

笠原 みれい さん (2年)

◆上越地区小中学校、家庭技術・家庭科作品展

(作品 スピーカーボックス)

奨励賞 井上 達哉 さん (2年)

入選 菅谷 もも さん (2年)

岩佐 武蔵 さん (2年)

關根 幸希 さん (2年)



◆国土緑化育樹運動ポスターコンクール 奨励賞

関川 敦也 さん (3年)

◆よさこい部 上越市民芸能祭 (11月21日《日》) 参加

ちょっとよい話 (12月13日校長メッセージに関連して)

12月9日(木)、希望館で行われた研究会に参加した佐渡の方が、帰りに直江津駅行きのバスに乗ったところ、頸城中の生徒が快く席をゆずってくれたということがありました。10日(金)に同じ研究会に参加した頸城中職員が感謝の言葉をいただきました。今回のように、思いやりの気持ちを行動に移せる生徒のことを誇りに思います。

今年1年ありがとうございました

学校だより

町内回覧



頸城中HPにアクセス!

頸城

令和3年12月20日 No. 8

上越市立頸城中学校

〒942-0164 頸城区湯口 60

TEL 530-2405 FAX 530-2014

学校メール kubiki-j@jorne.or.jp

悩みがあるから生きがいがある

悩んだり、腹を立てたり、悲観したりすることは社長の仕事である。経営者の仕事である。そういうものがなかったら経営者の生きがいがないのやと、こういうように考えたらだいぶ楽になったのですよ。今は悩むために自分は存在しているんやな、悩みが本業やなど、こういうような感じを持つようになったんです。(松下幸之助「運を開く言葉」より)

私たちは誰でも人知れず様々な悩みを抱えているものです。仕事の行き詰まり、人間関係のトラブル、家族についての心配等、悩みが病を引き起こしたり、自殺や傷害事件など、不幸な出来事につながったりすることも世の中には少なくはありません。

松下幸之助(パナソニックグループの創業者)も、どちらかといえば神経質なほうで、よく悩みを抱える人でした。悩みに悩んで、眠らないまま朝を迎えることもしばしばであったといいます。

大阪電灯に務めていた20歳のころには肺炎にかかり、医者から、「会社を休んで半年ほど郷里に帰って静養したほうがいい」と宣告されます。けれど、両親も帰る郷里もすでになく、どうすればいいのかと心を痛めました。悩んだ末に、「これも運命だ。病気ととことんつきあってやろう」と考え、会社に3日行って1日休むというような状態を繰り返すうちに、病は徐々によくなっていったといいます。

また、松下電器を創業してしばらくしたころ、税務署に申告した所得がそのまま受け入れられず、もう一度調査するということになりました。そのとき、「どれだけとられるのだろうか、正直に申告しなければよかった」と、心配で夜も寝られなくなるのですが、「儲けた金はよく考えれば自分のものではない。天下の人、天下の土地を使い儲けた天下の金、国家の金だ。もともと自分の金ではないのだから税務署がいくらもっていかうと好きにすればいい」というように見方を変えて切り抜けています。

あるいは、お得意先から商品に対する苦情を受けたときも、そうした苦情があるからこそ製品がよくなるのだというように考えていきました。このようにさまざまな悩みを、見方を変え、考え方を換え、一つ一つを自らの経営や人生の糧にしていったのですが、そうした体験を通じて、さまざまな問題に悩むことこそが経営者の仕事である。また、悩みがあること自体が人生の彩りで、悩みこそが生きがいにならなければならない、と考えるような境地にまでなっていました。

松下の晩年の悩みは、日本の国の将来でした。国家運営の基本方針もなく、国費だけがどんどん増えていく状況に、このままいけばこの国は破綻をきたすのではないかと憂い、何とかしなければならぬと考えていました。松下にとって、これらの悩みが生きがいでもあったのです。

何の悩みもない人生、それは望んでも得られるものではないでしょう。しかし、もし例え得られたとしても、何の刺激もなく感激もない平坦でつまらない人生といえるのではないのでしょうか。

バス内での「思いやり」優一さん。
こんなにも嬉しいことはない。
敦

12/13 校長メッセージより

悩みに直面したとき、これが自分の生きがいだと思えるかどうか、そんなところにも豊かな人生を生きるポイントがあるのかもしれない。

今、さまざまな悩みを抱えている皆さんにとって、勇気を与えてくれる言葉ですね。「前へ」進むための1つのヒントにもなりますね。

生徒の手で創り上げた「いじめ見逃しゼロスクール集会」

11月9日(火)に「いじめ見逃しゼロスクール集会」を開催しました。例年、武道場に小6～中3全員が集まって開催していましたが、コロナ禍のため、今年度は、各学校での開催となりました。



頭城中では、生徒会総務が中心となり、いじめの問題について考えるための動画を制作しました。3年生は武道場、2年生が多目的室、1年生が自教室に分散し、その動画を見て、いじめ問題について考えました。それぞれの会場の進行を生徒会総務が行うなど、生徒の手で創り上げた集会になりました。



区内の小学校には、生徒会総務が制作した動画と、1年生が総合的な学習の時間で制作した学校のことを紹介する動画DVDを配りました。

いじめは、重大な人権侵害です。いじめで苦しむ人が出ないように、全校で真剣に考える機会になりました。



新しいALTが赴任しました

11月9日(火)に新ALTのFrédérique Gamache(フレッド先生)が赴任しました。カナダのケベック州の出身です。一層の英語教育の充実を図っていきます。

Hello, my name is Frédérique Gamache. I am a first year ALT based in Kubiki Junior High School, here in Jōetsu. I am originally from a small town called Chapais, in Canada. My first language is French, but I have learned English through school. I only speak Japanese a little bit, but I try to practice everyday. In my free time, I enjoy reading, painting, playing volleyball and exploring the prefecture. Thank you for welcoming me in your beautiful city!



自己紹介を英語で書いてもらいました。生徒から読んでもらってください。

体育館の遮光フィルム工事完了～後援会の皆様ありがとうございました



12月2日(木)、以前から要望していた体育館南側窓の遮光フィルム貼付の工事が完了しました。ずいぶん前にカーテンが古くなって取り外してから、ブルーシートで太陽光を遮っている状態が続いていました。おかげで、太陽光の影響で昼間にまぶしい状態がなくなりました。工事のお手伝いをする目的で、11月30日(火)には、後援会とPTAの役員の皆様、生徒会総務のみなさんと、体育館

南側のギャラリーを清掃しました。体育館は、夜の社会体育だけでなく、休日の社会体育や地域の行事で利用されることもありますが、今後は、きれいでまぶしくない環境で使っていただけます。また、日常の教育活動として体育館を使用している体育の授業やバレーボール部の活動、冬季間利用している他の部活動なども利用しています。この工事は、頭城区の地域協議会と、望月博後援会長様をはじめとする後援会の皆様のご尽力がなければできませんでした。また、地域の皆様や保護者の皆様からもご理解をいただきました。ありがとうございました。



令和4年度生徒会正副会長が決定

12月8日(水)の午後、立会演説会が行われました。その後、終学活時に投票し、即日開票が行われ、令和4年度生徒会正副会長を決定しました。

今年は、生徒会長候補に1名、男子副会長に3名、女子副会長に3名の立候補があり、総勢7名での選挙活動となりました。学年・学級で協力し合い、活発な選挙活動が繰り広げられました。1年生にとっては、初めての選挙活動で、立候補者も応援生徒も一から取り組みました。この取組を通し、学校全体のことを考えるよい機会になったと思います。2年生にとっては、1年半、生徒会活動を経験し、そこで得た経験を基に、頭城中の伝統を引き継ぐとともに、新たな頭城中の方向性について考えるよい機会となりました。3年生にとっては、1・2年生の演説を聞いたり、選挙活動に取り組む姿を見たりすることで、自分たちの生徒会活動を振り返るよい機会となりました。特に、立会演説会での現生徒会三役による質問は、候補者に「自分たちの次を頼む!」という激励の気持ちがこもっていました。今年度の3年生は、今まで以上に明るく温かい雰囲気を生徒会を作り上げました。その3年生の気持ちを受け、当選した3名を中心に、令和4年度の生徒会活動をさらに発展させるものと思います。生徒会長に決まった武藤さんは、スローガンに「肝胆相照(かんたんそうしょう)」を掲げました。これは、中国の『故事成語考』という書物の中に「肝胆相照らす、斯(そ)れを腹心の友と為す」という一節を基にした故事成語です。意味は、「お互いに心の奥底まで打ち明けて理解し合い、親しく付き合うこと」です。そこで、副題を「信頼し合える学校」としました。また、副会長のスローガンの中に、「充実した学校生活」「地域貢献」などの言葉が入っていました。「信頼」を基本に、学校内外での活躍が期待できるスタートになりました。



生徒会長 武藤 稜さん(2-2)
男子副会長 小川 逞さん(2-1)
女子副会長 内山 愛果さん(2-2)

